

高取の考古学Ⅳ

速報—高取の発掘調査最前線2020



市尾カンデ遺跡 大壁建物1



キタヤマ1号墳 横口式石槨



イモリ1号墳 遺物出土状況

令和2年3月
高取町教育委員会

目 次

はじめに.....	2
1. 与楽キタヤマ1号墳.....	3～4
2. 与楽イモリ1号墳.....	5～6
3. 市尾カンデ遺跡.....	7～8
4. 谷田スガマ古墳群.....	10～12



イモリ2号墳 表土掘削



市尾カンデ遺跡 遺構ライン引き

本資料は令和元年度発掘調査速報展「高取の考古学Ⅳ」の解説である。
与楽イモリ1号墳は、山崎公輔（大阪市立大学院生）が、
その他は、高取町教育委員会 木場幸弘が執筆・編集した。

はじめに

高取町教育委員会は平成28年～30年度まで実施した発掘調査や試掘調査の中で、与楽キタヤマ1号墳・与楽イモリ1号墳・市尾カンデ遺跡・谷田スガマ古墳群の4ヶ所の成果を速報で紹介します。4遺跡の調査は終了しましたが、日程などの理由で調査成果を公開する現地説明会等を行えませんでした。そのことの反省を踏まえ、高取町の考古学Ⅳという形で速報展を企画しました。ご観覧いただき、高取町の文化財行政へのご理解とご協力をいただければ幸いです。

高取町教育委員会

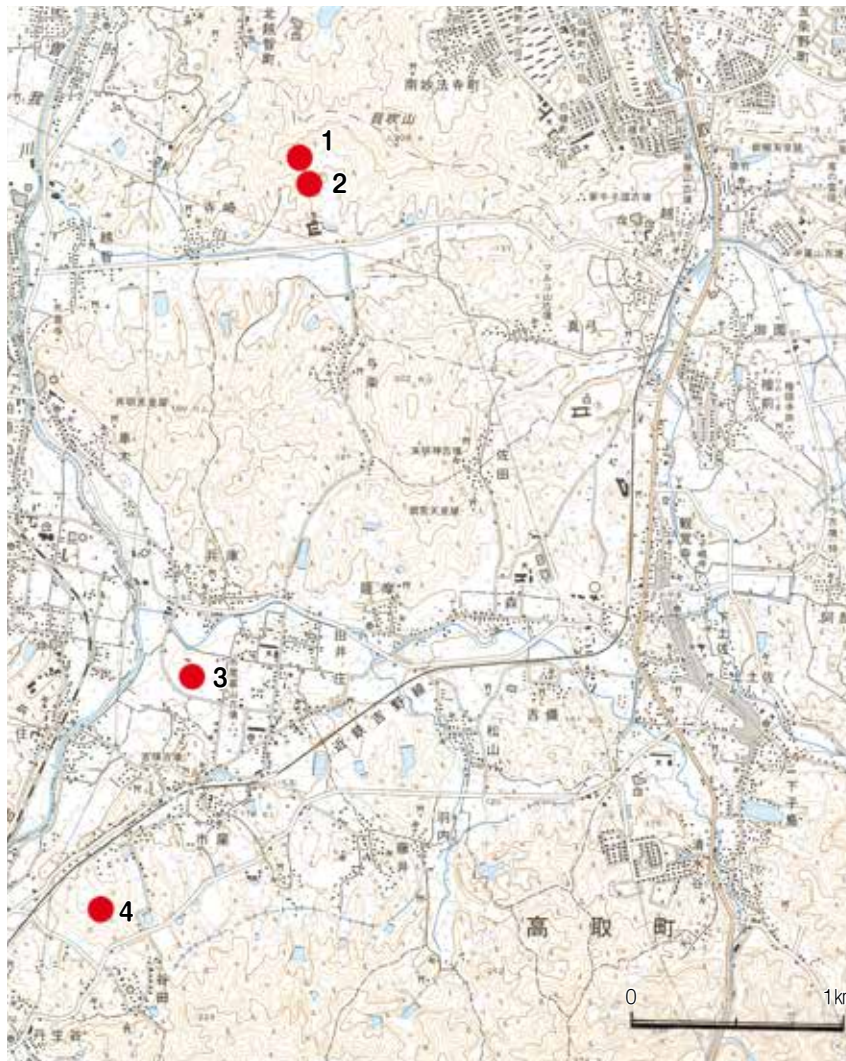


図1 高取の考古学Ⅳ掲載調査地位置図
(国土地理院発行地形図に一部加筆)

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. 与楽キタヤマ1号墳 | 2. 与楽イモリ1号墳 |
| 3. 市尾カンデ遺跡 | 4. 谷田スガマ古墳群 |

1. 与楽キタヤマ1号墳

【はじめに】

与楽古墳群は、高取町北端の貝吹山(標高210.3m)の南麓に100基以上の横穴式石室・横口式石槨をもつ古墳時代後期～終末期に築造された古墳群です。与楽鐘子塚古墳・カンジョ古墳・寺崎白壁塚古墳の3基を中心として平成25年に国指定史跡になりました。高取町教育委員会は与楽古墳群の保全と国指定地の追加を目指した範囲・内容確認調査を平成28年度から国庫・県費補助事業として行っています。

【調査成果】

史跡寺崎白壁塚古墳から南へ派生する丘陵にある奈良県遺跡地図17A-615(国指定地)の古墳南側に古墳状隆起が見つかり、丘陵に繁茂する竹や桐を伐採して発掘調査を実施しました。墳丘と考えられる盛土は既に削平されていましたが、中央に大きな盗掘坑があり石室石材の一部を確認しました。想定される古墳の位置に幅1m長さ17mの南北方向の(1トレンチ)と東西2m南北4mを測る長方形の(2トレンチ)調査区を設定し、断面観察畦を残して人力で掘削し、1トレンチは、掘割と石槨・羨道を、2トレンチは掘割を検出しました。



1トレンチ掘割(北から)



2トレンチ掘割(北から)

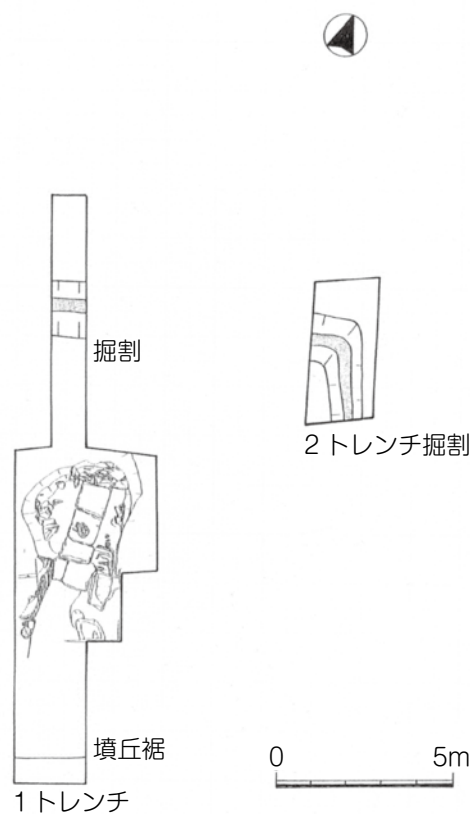


図2 与楽キタヤマ1号墳
墳丘平面図

2ヶ所の調査区で検出された掘割から墳丘を復元すると、掘割を含めて一辺が約14mを測る方墳と考えられます。石槨は横口式石槨で、天井・両側壁が抜き取られ奥壁と床石3石が、羨道は右側石2石と床石2石が残存していました。残った石材から石槨の内法は、長さ2.25m幅0.8m、羨道の長さ約2.5m幅約1mを測り、高さは不明です。1号墳から、須恵器・土師器・瓦質土器の破片と、鉄釘が遺物包含層から出土しました。

【まとめ】

キタヤマ1号墳は、横口式石槨の編年から7世紀中頃の築造と考えられます。同じ横口式石槨を有する寺崎白壁塚古墳より墳丘の規模や羨道の長さに違いがあり、古墳の築造時期か被葬者の地位の違いかは今後の検討が必要です。与楽古墳群内にあるキタヤマ1号墳の被葬者は、渡来系氏族 東漢氏が候補者と考えられます。



横口式石槨（北から）

図3 与楽キタヤマ1号墳 横口式石槨平面図



石槨羨道（南から）



石槨床石（東から）

2. 与楽イモリ 1号墳

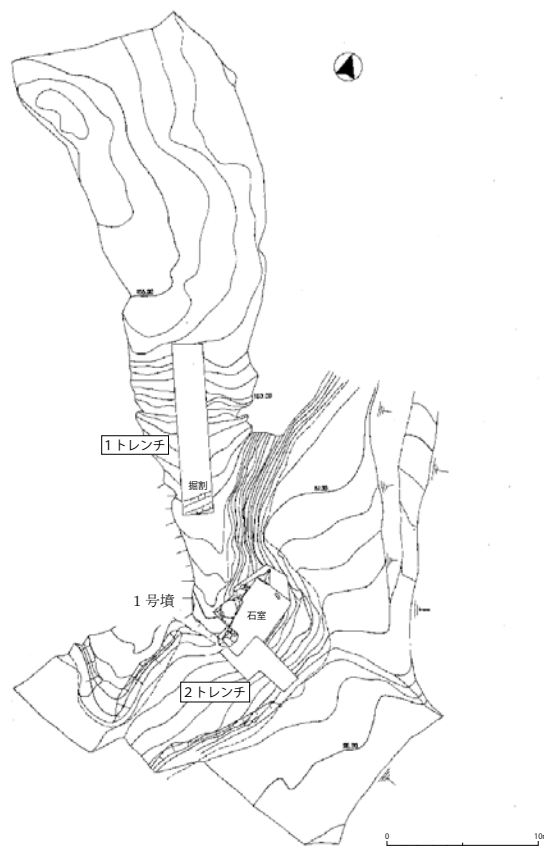
【はじめに】

与楽イモリ 1号墳は与楽古墳群中にあり、貝吹山南麓にある寺崎白壁塚古墳から、南へ派生する丘陵先端部にある奈良県遺跡地図17A-617に位置する古墳です。高取町教育委員会は国庫・県費補助事業の一環として、平成29～30年度にかけて本古墳の範囲・内容確認調査をおこないました。第1トレンチは墳丘裾を確認する目的で、墳丘裾付近と推定される丘陵の北側に設定しました。また、第2トレンチは埋葬施設を確認する目的で、丘陵先端部に近い南側に設定しました。

【調査成果】

1 トレンチでは幅40cm、深さ30cmほどの掘割を検出しました。墳丘はすでに大半が削平されていましたが、この掘割を検出したことによって、墳丘の範囲が明らかとなりました。

2 トレンチの調査では、本古墳は横穴式石室を埋葬施設とする古墳だということが明らかとなりました。石材のほとんどは抜き取られ、羨道・天井石、左側石は現存しておらず、右側石の一部と袖石、奥壁の一石が遺存するのみでした。このように、石室は本来の形をほとんど留めていませんでしたが、副葬品はほぼ原位置を保っていました。特に、木棺に使用されたと考えられる鉄釘が原位置を保って出土したことで、被葬者を容れた木棺の規模や寸法を復元することができます。さらに、その出土位置や釘の型式差から、玄室内には2棺が並列して安置されていたと考えられます。このように、古墳時代に使用された木棺の構造や使用方法がよくわかる好事例といえます。他にも、須恵器・土師器といった土器類や被葬者が身に付けていたと考えられるガラス玉・金銅製釵子といった装身具類が出土しました。



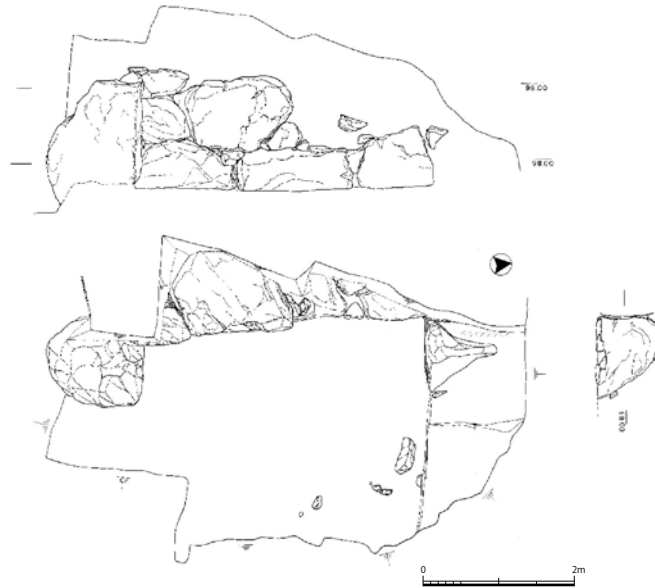
1. 与楽イモリ 1号墳測量図



2. 掘割検出状況



3. 鉄釘の出土状況



4. イモリ1号墳の横穴式石室

【まとめ】

イモリ1号墳は1トレンチの調査成果によって、径18mの円墳だということがわかりました。また、正確な規模は不明ですが、玄室長3.7m、同幅2m以上の横穴式石室を内部主体に持つ古墳だということも明らかとなりました。第1被葬者は石室内から出土した須恵器の型式から、6世紀後半ごろに埋葬されたと判断できます。また、出土須恵器に型式差があまり認められないため、それほど長い時期を経ずに第2被葬者も埋葬されたと考えられます。さらに、本古墳の被葬者は、金銅製の釵子が出土していることや30cm大にも及ぶ大型の鉄釘を用いた木棺に納められていることから渡来系氏族が想定されます。



5. 出土須恵器群



6. 金銅製釵子

3. 市尾カンデ遺跡

【はじめに】

市尾カンデ遺跡は高市郡高取町市尾字カンデに所在し、奈良県遺跡地図17A-840の遺物散布地です。市尾遺跡は字カンデや国指定史跡の市尾墓山古墳の周辺に位置し、過去に市尾墓山古墳を除く3次の調査が行われています。1次調査は平成13年度に市尾墓山古墳の南東約100m地点の個人住宅に伴う国庫・県費補助事業として50㎡の調査を実施し、弥生時代後期の水田跡と土器を多く含む大溝を検出しました。平成21年度の2次調査は今回調査地西側の民間福祉施設の開発に伴い585㎡の調査を受託事業として実施し、古墳時代の大壁建物跡6棟と古墳～飛鳥時代の掘立柱建物跡2棟などを検出しました。3次調査は福祉施設拡張に伴う受託事業として平成30年7月28日～11月4日の期間と平成30年10月13日～20日は重機による試掘を国庫・県費補助事業として実施しました。調査面積は合わせて約1,000㎡です。

【調査成果】

遺構の検出状況

3次調査は、古墳時代の大壁建物跡16棟(一部含む)、掘立柱建物跡8棟(一部含む)、竪穴建物跡2棟を検出しました。大壁建物跡は幅約0.5mの壁溝内に直径約0.3～0.4mの円形の掘形に、直径約0.15～0.2mを測る柱根を並べて杭状に打ち込み、杭を土などで内側に塗り込んで壁面を構築したと考えられる建物跡です。今回の調査で建物平面全体を検出した大壁建物1は、東西の長さ14.5m、南北の長さ13mを測ります。建物の東側壁溝が約10m間途切れ、建物の出入り口と考えられます。全体が判っている大壁建物跡では森ヲチヲサ遺跡の大壁建物1と比べ同規模で、現在まで検出された全体が判る大壁建物跡では国内最大級です。また東西方向に並列する壁溝の中央に直径0.6mの柱の掘形に直径0.3～0.4mを測る柱穴の痕跡を検出したことから、柱穴の痕跡は大壁建物1の棟持柱と考えられ、大壁建物に天井部分があった可能性があります。また大壁建物1より以前に建てられた大壁建物も建物平面では大型で一辺11m～19mを測ります。また最初に建てられた大壁建物4は細長い長方形を呈し、東西7.5m南北22mを測ります。同形態の細長い大壁建物は市尾遺跡2次・観覚寺4・7次調査で検出されています。今後建物の用途など検討します。大壁建物は遺構の前後関係から少なくとも古墳時代の4時期に存在したと考えられます。

掘立柱建物跡は8棟検出し、柱の掘形は長方形を呈し一辺1mを超えるものも有り、検討が必要ですが柱間は2～2.5mあり、復元すると2×3間の建物や2×2間の総柱建物の可能性がある。建物は遺構の前後関係から古墳時代の3時期に存在したことが考えられます。

遺物の出土状況

遺物収集箱(コンテナ)4箱の出土遺物がありました。ほとんどが表土内の古墳時代の土師器片で僅かに弥生式土器の壺片、須恵器片、黒色土器片、瓦器片、陶磁器片、石器などがあります。時期がわかる資料として有効と考えられる遺物の中に大壁建物跡・掘立柱建物跡を構築した基盤層の上層にあった粗砂混じりの黒褐色の粘質土の溝の堆積土や大壁建物1の壁溝内の柱穴と重複した上層の柱穴から出土した土師器破片があり、土器の年代は布留2式の時期(4世紀後半～5世紀前半)と考えられます。

【まとめ】

3次調査の結果から検出した大壁建物や掘立柱建物の時期は、4世紀末～5世紀初頭と考えられ、今までは清水谷遺跡や観覚寺遺跡の例から高取町への古墳時代の渡来人の移住は5世紀後半と考えられていましたが、約80年近く遡る可能性が出てきました。応神天皇十四年条(403年)に『秦氏の祖、弓月君が、

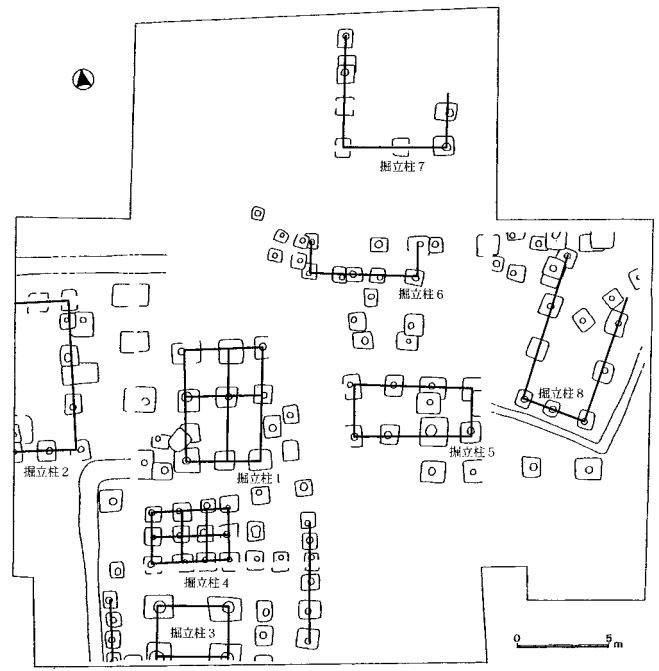
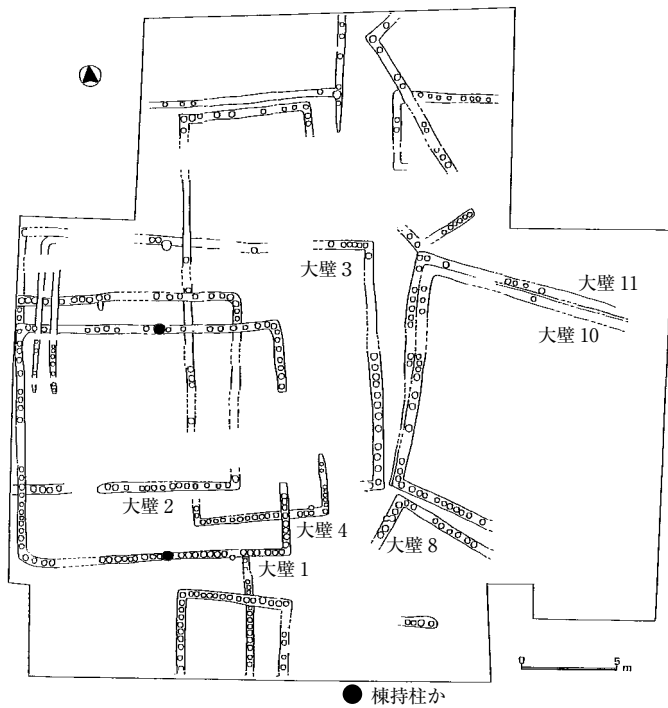


図4 大壁建物 平面図

図5 掘立柱建物 平面図

二十年条(409年)に東漢氏の祖、阿知使主とその子都加使主が百済の人民をつれて来朝した』と日本書紀の記述にあり、これを裏付けています。建物に関しては、遺構の残存状況は良好でなく底部が僅かに残っている程度で、伴う遺物も少なく建物からの生活感を感じられません。建物跡は非日常的で倉庫や祭祀など特殊な建物の可能性が考えられます。



市尾カンデ遺跡（上空から）
写真 左が北

市尾カンデ遺跡



大壁建物1 (南から)



大壁建物 (南東から)



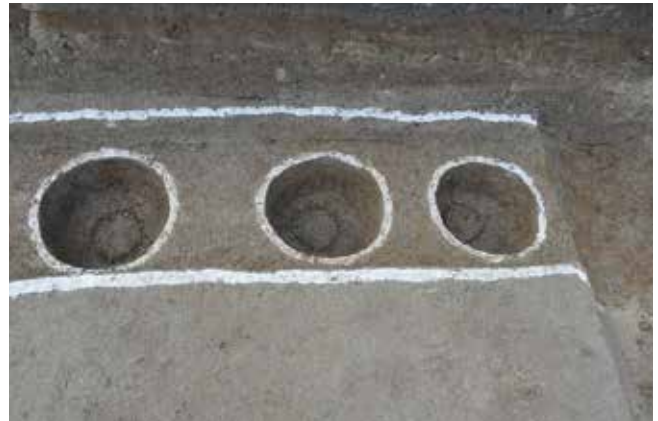
大壁建物 (東から)



大壁建物1 (北東角部分)



大壁建物 壁溝断割り



大壁建物 壁溝柱根部分検出状況



棟持柱断割り 市尾カンデ遺跡調査写真



土師器出土状況

4. 谷田スガマ古墳群

【はじめに】

高取町大字谷田に所在する谷田スガマ古墳群は古墳時代の20数基からなる群集墳です。民間開発の受託事業として保存協議の結果、削平を免れない事業地内の丘陵先端部を平成30年11月20日～31年3月8日の期間で発掘調査を実施しました。調査面積は約500㎡です。

【調査概要】

谷田スガマ11号墳は南北から西へ派生する尾根の分岐点に立地し、県遺跡地図17C-0016の円墳と考えられていましたが、踏査時に墳丘西側に造り出し状の平坦面を確認したことから、墳丘長25mを測る前方後円墳の可能性を含め調査を実施しました。墳丘に大きな盗掘坑があり、また墳頂部の北半分は削平を受けていましたが、精査を行うと南北に並列した2基の木棺痕跡を墓壇の平面と盗掘坑の断面観察から確認しました。木棺痕跡は墳頂部の西寄りに東西約8.5m南北約5.5mを測る長方形の墓壇を掘削し、北側の棺（北棺）は、長さ7.9m幅1.1mの隅丸の細長い長方形を呈した木棺の痕跡が検出されました。南棺は長さ8.2m幅2.9mを測る長方形の墓壇を掘削し、長さ4m以上、幅1.5mを測る長方形の木棺

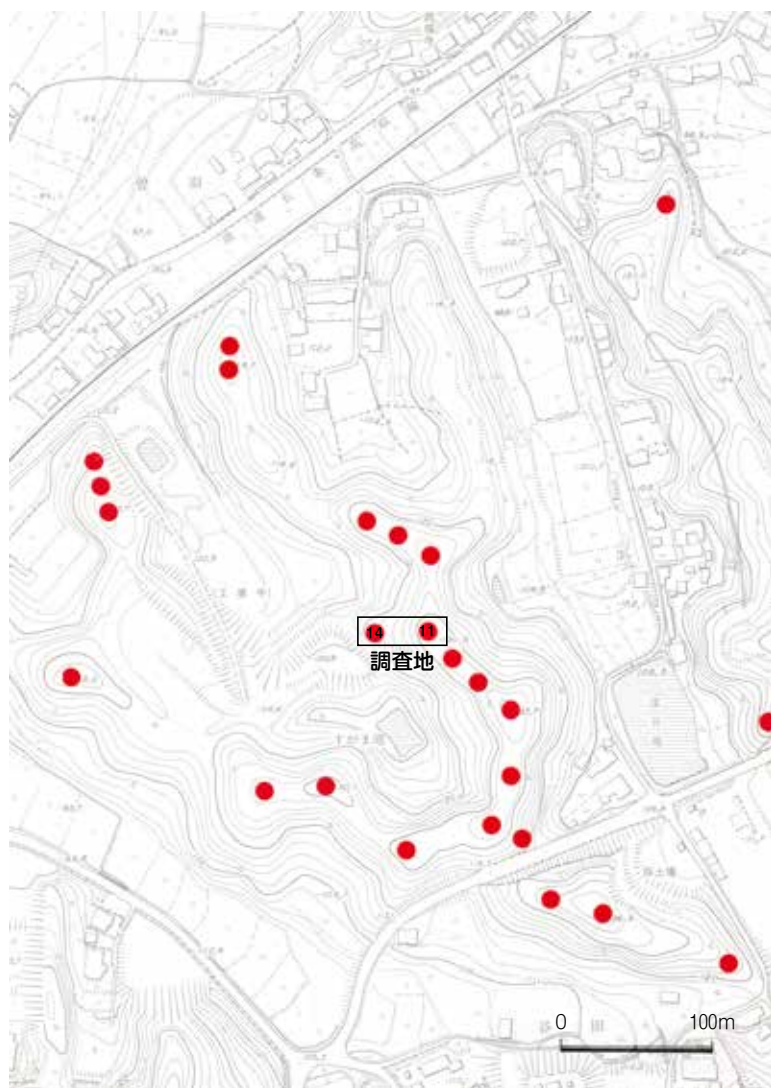


図6 谷田スガマ古墳分布図

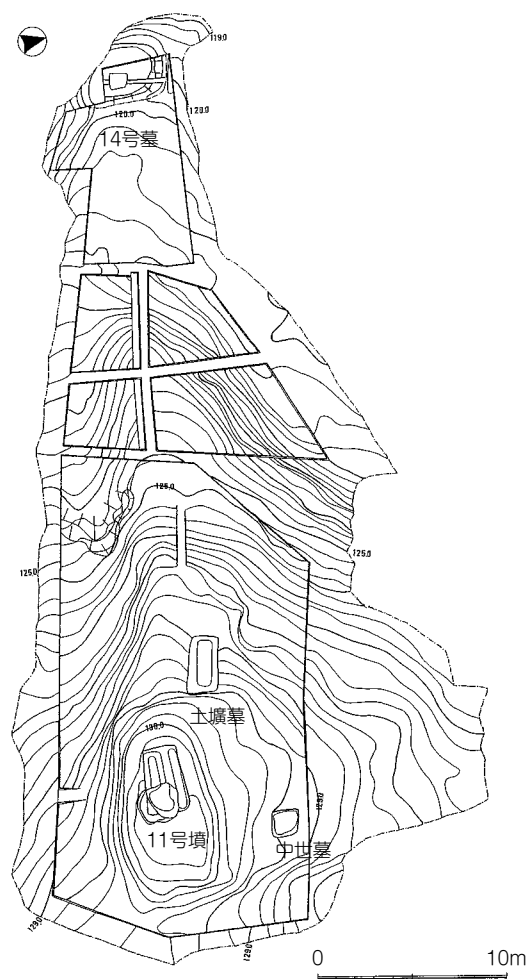


図7 谷田スガマ古墳群地形測量図



スガマ古墳群（上空西から）

の痕跡が検出されました。木棺は両方とも底部まで検出面から深さ約 0.4 m を測ります。断面の状況から南棺は北棺より後に埋葬されています。北棺埋土上面から鉄鏃が 2 点出土しました。また表土内に円筒埴輪・須恵器破片等が採集されました。

11 号墳西側に位置する造り出し状に設置された方形の平坦面は、11 号墳の前方部とは考えられず、11 号墳の墳丘を削平し、平坦面を造り墓壇を掘削して直葬した土壇墓と考えられます。地形測量結果も合わせ 11 号墳は墳丘の北と西部を大きく削平されたが、一辺約 10 m 以上、高さ 2 m 以上を測る方墳で出土遺物から 5 世紀末頃に築造された木棺直葬墓と考えられます。

11 号墳の北半分部分は墳丘を削平して 6 m 四方の平坦面を造り、中央に東西 3 m 南北 3 m 検出面から深さ 0.3 m を測る正方形を呈する土壇を掘削し焼土壇としていました。土壇から焼土・炭片と混じって骨片、不明鉄製品、土師皿等が多く出土しました。土壇は中世火葬墓と考えられ、出土した土師皿から 13 世紀後半に土壇で火葬されたと思われる。

調査区の西端に県遺跡地図 17 C - 0015 に指定された古墳状隆起が確認され、調査の結果、地山の花崗岩を削り出して整形して上部に一辺約 5 m の方形の盛土を施し、盛土中央に一辺約 0.8 ~ 1 m、検出面から深さ 0.5 m を測る方形の土壇を掘削しています。土壇内から遺物の出土は無かったが、土壇上面から不明土製品片、土壇の周辺から鉄釘と銅板の残片が採集されています。土壇は古代の火葬墓と思われる埋葬時期は 8 世紀頃と思われる。

【まとめ】

谷田スガマ 11 号墳は、調査以前に大きな盗掘坑があり成果はあまり期待されなかったが、墳丘の形態や規模、築造時期など僅かながら知ることができました。周辺には 20 基近い古墳が存在し、今後これらの古墳の保全が望まれます。

谷田スガマ古墳群



11号墳木棺跡



埴輪出土状況



鉄鏃出土状況



土壇墓 (東から)



14号墓 (東から)



14号墓古代墓



11号墳中世墓



中世墓土師皿出土状況



キタヤマ1号墳石槨の矢穴